

深

大分県
佐伯市浦江

リアス式海岸の続く山並みと、その向こうに見える小さな島。
久しぶりに潜った日本の海は、人里遠く離れたそんな場所にある。
ダイバーにとっては、どちらかと言うとマイナーな場所。大分県のほぼ南端に位置する、人口30人の島「深島」。
海中には、豪快な地形やカラフルなソフトコーラルの群生地が広がり、
黒潮の支流が流れ込むと、まるで沖縄の離島で潜っているかのような透明度に変貌する。
雑誌でもあまり紹介されることのない九州の海を潜った。

島

Photo & Text Takaji Ochi
Special Thanks Oita Marine culture center , Blue earth 21

背平山から、日豊海岸国定公園のリアス式海岸を眺める。美しい日本の風景

Fukushima

Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.oitamcc.com/> 関連情報HPへ



深島の港内に群れる、テンジクダイ



遠景に深島を望む大分県マリンカルチャーセンター

大分県随一の ダイビングスポット 深島

水深25m、突然頭上が暗くなる。太陽が雲に隠れたのかと思って水面を見上げると、魚たちの巨大な群れが渦を巻いていた。「何だ、この群れ!」。僕はそう思いながら、すでにカメラを構えて、その群れにアプローチしていた。群れの種類は、イサキとメジナ、それにブリといった、名前を聞いただけでも美味しそうな魚たち。しかもその群れがぶつかり合い、さらに巨大な群れとなって、頭上を旋回し続ける。

ここは、九州は大分県の最南端の海。宮崎県との県境に浮かぶ、ひょうたん型をした小さな島、深島。古くから、クロダイ、ハマチ、ブリなどの磯釣りポイントとして有名で、全国から多くの釣り人が訪れる場所でもある。

大分県や近県のダイバーからは、県内一番のダイビングポイントとして有名で、週末には、ダイバーの姿を目にすることも多い。人口30人、周囲4kmの、この小さな島に潜りに行くには、9km北にある、佐伯市蒲江町・元猿湾にある大分県マリンカルチャーセンターからダイビング用にチャーターした小さな漁船に乗り込むことになる。時間にして、約20分。

深島は豊後水道の西端に位置している。これは、瀬戸内海へと流れ込む、黒潮の支流の影響を大きく受ける位置でもある。この深島から豊後水道を挟んだ、ちょうど対岸側の四国最南端には、変わった生物が多く生息することで、全国のダイバーに名をはせた高知県の柏島が存

在する。

良く晴れた日などに、元猿湾を守るように立つ、標高392mの背平山に登ると、大分県から宮崎県へと続くリアス式海岸と海岸に迫る山並みのほか、東の彼方に四国が見渡せることもある。地図で調べたところ、柏島までの直線距離は約60km。しかも同じ黒潮の支流の影響を強く受ける場所。何か変わった生物が見れるのでは、という期待を大いに抱かせてくれた。

大分県 佐伯市蒲江 深島

Web-lue 2008. Spring



イサキとメジナの群れが頭上で交錯した
巨大な群れが頭上を旋回し続ける

Shoal of fish

大分県 佐伯市浦江 深島
Web-lue 2008. Spring



黄色や赤のカラフルなソフトコーラルがかわいい



ソウノハエのソフトコーラルは一見の価値はある

目を見張る ソフトコーラルの 大群生

「この海の一番の売りは、なんといっても、巨大でカラフルなソフトコーラルなんですよ。黒潮が当たって、透明度が増す青い海中で見るカラフルなソフトコーラルは本当に綺麗です」。今回、ガイドを担当してくれたのは、モルディブのダイビングクルーズ船、サザンクロス号にガイドとして数年間乗船した経験もある、大分市内にあるブルーアース21のガイド、長野太輔君。

モルディブにも、カラフルなソフトコーラルが売りのポイントもあるし、僕自身、タイやインドネシアのメナドなど、さまざまな海で美しいソフトコーラルのポイントに潜ってきたので、最初に彼からそう言われたときには、「ふ〜ん」と軽くうなずいただけだった。

しかし、深島の北西にある岩礁のポイント、ソウノハエに潜ったときに見た赤、黄色、紫などのカラフルなソフトコーラルの大群生は、目を見張るものがあった。「日本にもこんなポイントがあるんだ」というのが最初の印象で、僕は透明度が悪いにもかかわらず、そのカラフルなソフトコーラルたちを撮影しまくっていた。

そのソフトコーラルの森の中には、オルトマンワラエビ、カエルアンコウ、セミエビなどの生物が身を隠すように生息していた。その上、水面下にはキビナゴが雲海のように群れ、太陽の光に照らされて、キラキラと光輝く。ヤラズノマという島の東側のポイントでは、同様にスカシテンジクダイが群れていた。

モッコクは、大分のグランドキャニオンと異名を取る、地形ポイント。岩礁がちな深島の周辺には、こうしたダイナミックな地形ポイントも点在している。

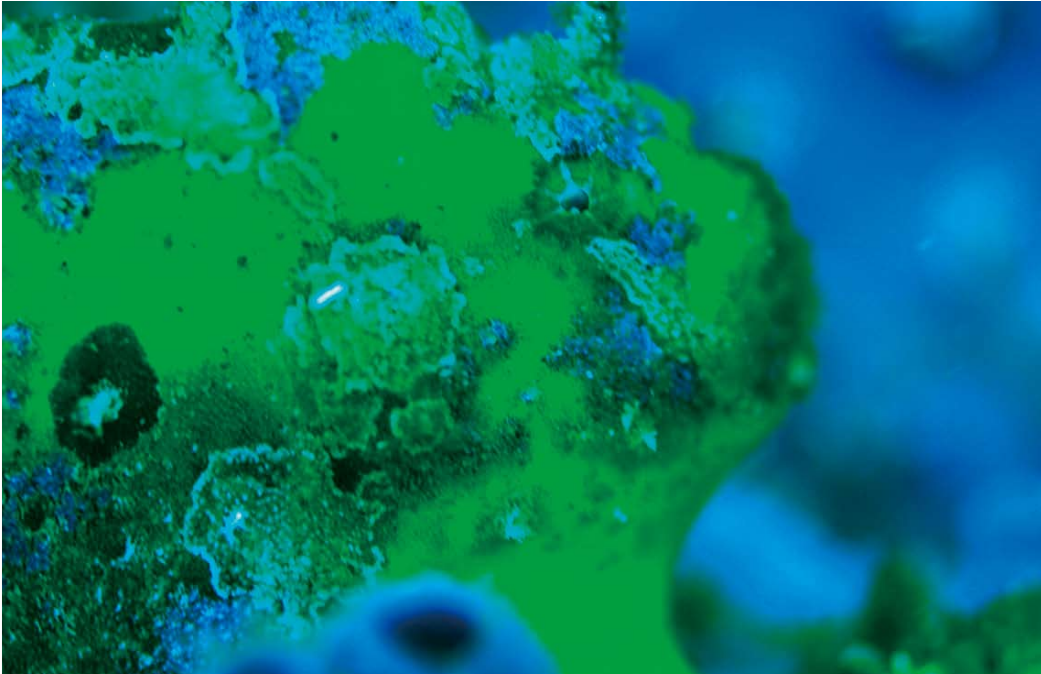


黒潮が当たると、深島の海中は真っ青に変貌した

大分県 佐伯市浦江 深島

Web-lue 2008. Spring

ソフトコーラルの中に身を潜めていたイロカエルアンコウ



サイケな体色がかわいい、ベニツケタテガミカエルウオ



深島のビーチで見つけたオオウミウマ



ソフトコーラルの中には高確率でオルトマンワレエビの姿を見つけることができる

この海が秘めた実力を垣間見た瞬間

Micro World

大分県 佐伯市浦江 深島

Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.oitamcc.com/>  関連情報HPへ



01



02



03



04

マクロも充実!
今後の開拓が期待される

Micro World



05



06

01, 深島ビーチで出会ったネジリンボウのペア
02, ペアで操作りをするクワイトハゼ
03, イソカサゴの共食い? ケンカをしていたようでこのあと吐き出していた

04, 蒲江ビーチは黒い砂の浜だ
05, ヒレナガハギとフウライチョウチョウウオのペア
06, 夜空の星のような斑点が美しいホシハゼ

肝心のマクロはどうかというと、深島ビーチや、そこから続くシンコウウラ、または船の出る蒲江のマリンカルチャーセンター前のビーチなどで、結構レアなマクロ生物を楽しむことができた。かわいらしい、ウミスズメの幼魚、カエルアンコウ、ベニツケタテガミカエルウオなど。深島ビーチでは、ネジリンボウ、オニハゼ、今回のロケで初めて発見したヒレナガネジリンボウ、ネオンワームゴビー、オオウミウマ、ジョーフィッシュなどなど。

蒲江ビーチでは、ニシキフウライウオ、カミソリウオ、ヨコシマエビ、ホタテウミヘビ、ハオコゼ、ツバメウオの幼魚、フタスジシモチの幼魚。何故かいつもペアでいたのは、ヒレナガハギの幼魚とフウライチョウチョウウオの

幼魚。まだまだ、探せばいろいろな生物が出てきそうな雰囲気がある。

ダイビング初日、「最悪の透明度」と長野君が言っていたのだが、数日間流れの速い日が続き、4日後のダイビング最終日には、「まるで沖縄で潜っているみたいな透明度」に変貌した。潜っているだけで、爽快で気持ちよい。一緒に潜ったゲストの女性は、両手を広げてその透明な海水を、気持ちよさそうに全身で受け止めるような仕草をしながら、ゆっくりと浮遊感を楽しんでいた。黒潮の影響を強く受ける深島ならではの海の変貌に感動しながら、今後のさらなる開拓を期待しながら、深島を後にした。

大分県 佐伯市蒲江 深島

Web-lue 2008. Spring



01, Blue earth 21は店舗の目の前が海だ。
02~05, アフターダイビングに温泉を堪能。まるで温泉旅行気分?

06, 別府市内にはたくさんの共同湯が点在している
07, 大分県マリンカルチャーセンターの外観を望む

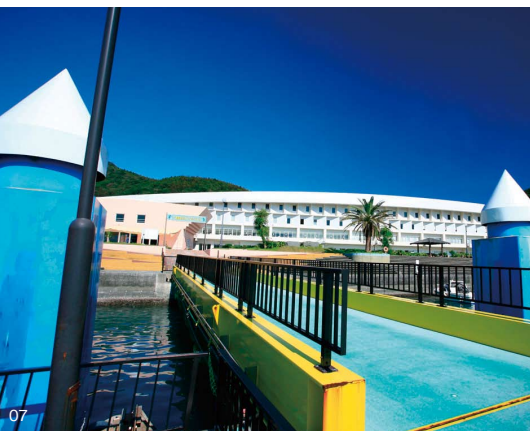
大分県と言えば、別府や湯布院のような温泉のメッカとしての印象が強い。深島での取材が終了して、大分市内に戻ってから、長野君がまっ昼間から僕を誘ったのは、温泉。「とりあえず、お茶でも行きませんか」ではなくて「とりあえず、温泉行きませんか」と言うのが、他県から来た人への挨拶なのか、それともこんなに温泉に誘うのは、彼だけなのか。

実際、家にお風呂が無くて、温泉に通う人も、この町ではまだまだ多いのだそうだ。それだけ、温泉が生活に密着しているということだ。

僕らは昼間から温泉に入り、取材の反省などを話あったり、たわいもない話をしながら、広い温泉内を移動しながら、自分のペースでくつろいでいた。僕のタイやフィリピンのロケでのアフターダイブの楽しみは、マッサージ。ここでは、昼間からの温泉。身近にあるから、わざわざ行くのが億劫ということもなく、自然に車に乗ると温泉に行き着く。近所人たちの語らいの場も温泉。

温泉を通じて、情緒ある人情味のある風景が残っている様子を楽しみのも悪くない。

ダイビングの後は、別府で温泉を満喫する



Blue Earth 21

大分市内の海に面したロケーションに店舗を構え、深島をはじめ、田ノ浦ビーチ、蒲江や間越へも潜りに行ける。店舗2階には週末OPENするBAR「KANTAN CLUB」があり、ゲストに人気だ。

<http://www.be21.com/>

大分県マリンカルチャーセンター

大分県策定のマリノポリス計画における海洋レジャー観光推進部門の中核的施設として平成4年に開館した施設。「海洋科学館」や「プラネタリウム」、「ふれあい水槽」、日本一の長さを誇る「100m海水プール」などがある。

<http://www.oitamcc.com/>